

## 東邦医学会雑誌投稿規定

(2004. 1. 1 変更)

### I. あらまし

- 1) 本誌の投稿は、本会会員（年会費；A会員：6,000円，B会員：5,000円，雑誌郵送の場合は送料670円増）に限る。
- 2) 原稿は創意に富んだもので，他の学術誌に掲載されたことのないものに限る。
- 3) 原稿は次の4群のいずれをも受付ける。
  - a) 原著論文，資料，短報，症例，総説
  - b) 本学を中心として行なわれる総合講義，特別講義，臨床講義，特別講義，学会，シンポジウム，座談会，討議会，視察記，トピックスなどのうち特色あると思われるもの
  - c) 東邦医学会記事
  - d) 留学記，学会紹介，教室紹介
- 4) 原稿の採否，掲載順，印刷時の様式などは編集委員会において決定する。ただし受理の決定されたものは原則として受付順に掲載する。都合により次号掲載となる場合でも，特別の申し出がある場合は，編集委員会で検討してその号に掲載できる。
- 5) 別刷の希望部数，印刷または用紙などについての希望事項は原稿の表紙に明記すること。別刷部数はおそくとも初校までに注文されたい。
- 6) 原稿は2部提出する。不測の事態にそなえて原稿およびFDのコピーを保存すること。
- 7) 編集部が依頼した企画以外のものは，すべて実費を申受ける。
- 8) 発行日は下記の通りとする（45巻1号より）。
 

1号（1月発行）	4号（7月発行）
2号（3月発行）	5号（9月発行）
3号（5月発行）	6号（11月発行）
- 9) 原稿届先は，〒143-8540 東京都大田区大森西 5-21-16 東邦大学医学メディアセンター内  
東邦大学医学会

### II. 邦文論文投稿規定

#### 1. 一般的注意

投稿原稿様式は次のごとくとする。

- A. A4用紙の片面に十分なマージン（2.5cm 程度）を取ってダブルスペースで記入する。
- B. 本文は，横書き，平仮名，新仮名づかい，口語体と

する。用語は日本医学会編「医学用語辞典」に従う。

C. 本文のほか下記の項目につき別紙にて提出する。

- 1) 第1頁に標題，著者名，所属名，ランニングタイトル
- 2) 第2頁に400字内外の邦文要約および5語程度の索引用語と脚注（1）：所属所在地
- 3) 第3頁より本文
- 4) 文献
- 5) 図，表および写真
- 6) 英文標題，著者名（英文名），所属名（英文名），300語内外の英文要約（abstract）および5語程度の keywords

#### 2. 原稿様式の詳細

##### A. 標題のページ

標題，著者名，所属名，ランニングタイトル

- 1) 標題：論文の内容を適確に表すものが望ましい。
- 2) ランニングタイトル：20字以内もしくは5語で付記する。

##### B. 要約および索引用語

- 1) 邦文要約：400字内外。要約には背景と目的，対象および方法，結果，結論の項目がその順に含まれ，見出し語とする。報知的に具体的に書くが，主体は成績，結論であり，このままでも医学中央雑誌の原稿として使える抄録となるようにする。要約が本文中に一般に使われている結論の代用となるときは，本文に結論の部分をつける必要はない。
- 2) 索引用語：標題を補って内容を十分に表わす用語を，5語程度まで選び記載する。
- 3) 脚注（1）：所属の所在地

##### C. 本文

- 1) 項目分け：序文（緒言），材料（対象）と方法，成績（結果），考察，まとめ（結語）とする。それぞれの見出しの番号は不要である。
- 2) 序文：1枚程度で目的および背景を簡潔に書く。1枚以上になるときは，目的を数行で述べる。
- 3) 成績（結果），考察：項目を分けて見出しの番号，標題を付けると，読みやすくなる。
- 4) 外国語：原語で活字体（タイプ）とする。もし邦文で書く場合には片仮名を用いる。
- 5) 省略，記号，医学用語：本文中で用いるもの

は, acetylcholine (ACh) のような書き出しで 2 回目より ACh を使う。この参考として Style Manual for Biological Journals (4th ed.), 化学名は International Union of Pure Applied Chemistry (IUPAC) に従う。酵素名は International Union of Biochemistry (IUB) に従う。

- 6) 薬品の一般名と商品名: これも省略の前に一般名と商品名を全スペリングであげ, 商品名の頭文字は大文字とする。商品名は標題および本文中に何度も用いず, 反復は一般名あるいはその省略とする。
- 7) 数字はアラビア数字を用いる。
- 8) 単位は原則として国際単位系 (SI) で, 日本字を用いず次の略号を用いる (特殊な単位を用いる場合には説明をつけること)。  
(例) 長さ……nm,  $\mu$  m, mm, cm, m, km  
重さ…… $\mu$  g, mg, g, kg  
容量…… $\mu$  l, ml, dl, l  
その他…… $^{\circ}$ C, % など
- 9) 用いられた統計学的処理の方法について記載する。

#### D. 文献

- 1) 主要なものに限定し, 本文最後に一括して引用順に配列し, 本文中の引用部位に数字番号<sup>12)</sup>を小文字で肩書すること。
- 2) 出版が確認されたもの以外 (未公刊の data) は文献表に含めない。本文中に (unpublished data, 未発表) または (personal communication, 私信) と書く。
- 3) 著者名: 全員記入する。
- 4) 誌名の省略: 雑誌名その他の省略は, Style Manual for Biological Journals (4th ed.) (1980) (生命科学論文のまとめ方のコツ, 久保・中村訳, 協同医書, 1980), Index Medicus, Chemical Abstracts, 「医学中央雑誌・収載誌目録 (最新刊)」によって略す。
- 5) 要素の配列  
例: 1) Faulkner RF, Hyde JE: Coordinated eye and body movements evoked by brain stem stimulation in decerebrated cats. *J Neurophysiol* **21**: 171-182, 1958  
2) 大坂 彰, 佐野 昇, 鈴木玲子, 上嶋権兵衛, 三木直子, 古橋紀久, 成光 実, 田崎義昭: 髄液酸塩基平衡の正常値に関する研究. 東邦医学会誌 **14**: 225-232, 1967  
3) Skinner DB: Surgical treatment. Bockus HL, Berk JE (Ed) *Bockus Gastroenterology* vol. 2 (4th ed.) p 840 - 850. Saunders,

Philadelphia, 1985

4) 柴田 進, 北村元任: 日常臨床生化学定量法, 現代診断検査法大系 p 163-166. 中山書店, 東京, 1964

#### E. 表 (Table), 図 (Fig.), 写真 (Photo)

##### 1) 表 (Table)

- a) 書き方: 1 枚ずつ別紙に英文で書く。短い表題を表の上に, 説明は表の下欄に付ける。この説明は出現順とする。
- b) 重複: 表と図のデータ重複を避ける。表の中で無意味な数字は避ける。
- c) 見出し語の省略: 表の下に付ける。推計学用語は p, SD, SE とする。

##### 2) 図 (Fig.) および写真 (Photo)

- a) 説明: 図および写真に分けて別紙に説明を英文でつける。
- b) 製版: 心電図, キモグラフ, オシログラフなどは製版で不均等にならないように均一の濃さの写真をとる必要がある。それぞれの図および写真の挿入の位置を原稿の脇に書くこと。
- c) その他: 図および写真は製版のとき台紙から外すことがあるので, 説明とずれないように裏面にも番号と著者名が分るようにしておくこと。上下もはっきり分るようにしておく。

##### 3) 化学式および等式

化学構造式, 実験順序, 複雑な数式はトレース作製が容易なように並べること。ギリシャ文字その他の使いわけが明瞭であること。

##### 4) 位置の指定: 本文の右横 (右余白) に赤エンピツで挿入の部位を示す。

#### F. 英文標題, 要約

- 1) 英文標題, 英文氏名, 英文所属名, 住所
- 2) 英文要約 (Abstract)\*: 別紙 1 枚に, Background, Material and Methods, Results, Conclusion の見出しをつけて 300 語内外とする。研究過程で生じた問題点, どのような方法で研究が遂行されたか, 明白な結果, その結果から引き出される結論について, 簡潔に, そして順序正しく記載する。必ずダブルスペースでタイプする (症例報告は, この規定にはあてはまらない)。\*2001 年 6 月より受付。
- 3) Keywords: 索引用語と同じく 5 語程度。

#### 3. フロッピー原稿の提出

査読終了後に完成原稿とともにフロッピーを提出する (詳細は「東邦医学会雑誌投稿のフロッピー原稿について」を参照)。

#### 4. 校正

校正 (初校) を著者に送る。校正後, 原稿とともに

〒143-8540 東京都大田区大森西 5-21-16 東邦大学医学  
メディアセンター内 東邦大学医学会に返送する。

### III. 欧文論文投稿規定

#### 1. 一般的注意

全般的原稿様式は邦文投稿規定に準じる。

A 4 用紙にダブルスペースで、両端余白を十分にとって  
タイプする。綴りや単語の分割は Webster International  
Dictionary (3 版) またはそれに準ずるものを参考にする。

投稿前に当該外国語学専門家 (特に外人) による十分な  
推敲が望ましい。

#### 2. 原稿様式の詳細

1) 標題, 著者名, 所属名, ランニングタイトル (5 語

以内)

2) 300語内外の英文要約 (Abstract) および 5 語程度  
の索引用語 (Keywords)

3) 脚注 (1): 所属の所在地を英文で記す。

4) 本文

5) 文献表

6) 図, 表および写真

7) 邦文標題, 著者名, 400字内外の邦文要約と 5 語程  
度の索引用語

#### 3. フロッピー原稿の提出

邦文論文と同じ。

#### 4. 校正

邦文論文と同じ。

### 東邦医学会雑誌投稿のフロッピー原稿について

レフリー (2 人) の査読終了後の完成原稿 1 部とフロッピー原稿を提出して下さい。

フロッピー原稿の作成は以下のようにお願いします。

#### 1. パソコンの場合

##### I. Floppy disk について

MS-DOS フォーマットした 3.5 インチフロッピー (2 DD または 2 HD) に使用した OS の種類 (version を含む) と  
アプリケーションソフト名を明記する。

##### II. アプリケーションソフトについて

本文および表:

##### (1) Macintosh

一太郎 (ver. 5), Microsoft Word (ver. 5.1, 6.0), Word Perfect (ver. 3.1), Nisus Writer (ver. 4-5.1),  
EGWord (ver. 6.7), クラリスワークス (ver. 2.0~4.0)

##### (2) Windows

一太郎 (ver. 8), Microsoft Word (ver. 6.0, 7.0, 97), Word Perfect (ver. 6.0, 7.0)

##### (3) DOS/V

一太郎 (ver. 8), Microsoft Word (ver. 97), Word Perfect (ver. 3.1)

##### (4) MS-DOS 3.1

一太郎 (ver. 4), Microsoft Word (ver. 5.0), Word Perfect (ver. 4.2, 5, 6.0)

これら以外のアプリケーションソフトを用いた場合, Microsoft Word または Word Perfect format に変換可  
能な場合は変換したファイルを提出して下さい。また, 対応ソフトをお持ちでない場合は編集部にご相談下さい。

図: PICT ないし TIFF format でお願ひします。

#### 2. ワープロの場合

リッチテキスト対応フォーマットまたはシャープ書院シリーズや NEC 文豪シリーズで作成した文章ファイルを,  
3.5 インチフロッピー (2 DD または 2 HD) で提出する。これら以外のフォーマットについては編集部にお問い合わせ  
下さい。

東邦医学会雑誌編集委員会